

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成29年1月19日(2017.1.19)

【公表番号】特表2016-505700(P2016-505700A)

【公表日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【年通号数】公開・登録公報2016-012

【出願番号】特願2015-555170(P2015-555170)

【国際特許分類】

C 09 J 201/00	(2006.01)
C 09 J 153/00	(2006.01)
C 09 J 11/06	(2006.01)
C 09 J 123/02	(2006.01)
C 09 J 123/08	(2006.01)
C 09 J 123/14	(2006.01)
C 09 J 123/10	(2006.01)
C 09 J 5/08	(2006.01)
C 09 J 5/06	(2006.01)
C 08 J 9/00	(2006.01)

【F I】

C 09 J 201/00	
C 09 J 153/00	
C 09 J 11/06	
C 09 J 123/02	
C 09 J 123/08	
C 09 J 123/14	
C 09 J 123/10	
C 09 J 5/08	
C 09 J 5/06	
C 08 J 9/00	C E Q Z
C 08 J 9/00	C E S

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年12月1日(2016.12.1)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 約90から約99.9wt%のホットメルト接着剤と、

(b) 約0.1から約10wt%の、剛性および弾性セグメントの交互ブロックを含有するブロックコポリマーと

(c) 場合により、約0.05から約10wt%の発泡セル形成剤とを含み、発泡性接着剤組成物の全重量が合計で100wt%である発泡性接着剤組成物であって、前記発泡性接着剤組成物の発泡時に、発泡した接着剤が約20から約80V/V%の体積パーセントを有し、

ブロックコポリマーが、

(i) ASTM D1238に従って測定される5g/10分以上のメルトイソインデック

スと、100を超えるDSC融点とを有するオレフィンプロックコポリマーか、あるいは

(i) SIS、SES、SEBS、SBS、SIBS、SEPSおよびこれらの混合物からなる群から選択されるゴム系コポリマーである、
発泡性接着剤組成物。

【請求項2】

前記ホットメルト接着剤が、ポリマーならびに場合によりワックス、粘着付与剤、可塑剤および添加剤を含む、請求項1に記載の発泡性接着剤組成物。

【請求項3】

前記ポリマーが、約5%から約60%の結晶化度範囲を有する、請求項2に記載の発泡性接着剤組成物。

【請求項4】

前記ポリマーが、非晶質ポリオレフィン、結晶性ポリオレフィン、エチレン酢酸ビニル、エチレンアクリル酸ブチル、プロピレン-ヘキセンコポリマー、エチレン-プロピレンコポリマーおよびこれらの混合物からなる群から選択される、請求項2または3に記載の発泡性接着剤組成物。

【請求項5】

発泡体が、気体、発泡セル形成剤または複数のミクロスフェアを用いて生成される、請求項1～4のいずれか一項に記載の発泡性接着剤組成物。

【請求項6】

前記発泡セル形成剤が、アゾジカルボンアミド、オキシビス(ベンゼンスルホニルヒドラジド)、トルエンスルホニルヒドラジド、ジフェニルスルホン-3,3'-ジスルホヒドラジド、トリヒドラジノトリアジン、p-トルエンスルホニルセミカルバジド、5-フェニルテトラゾール、無水イサト酸、炭酸水素ナトリウム、クエン酸およびこれらの混合物からなる群から選択される、請求項1～5のいずれか一項に記載の発泡性接着剤組成物。

【請求項7】

請求項1から6のいずれか一項に記載の発泡した接着剤を含む、物品。

【請求項8】

(a) 前記ホットメルト接着剤と、前記プロックコポリマーとを含む発泡性接着剤組成物を調製するステップと、

(b) 発泡性接着剤組成物を溶融状態に加熱するステップと、

(c) 気体を、溶融した発泡性接着剤組成物中に機械的に混合して、マトリックス中に発泡体を生成するステップと、

(d) 発泡した接着剤組成物を基材に塗布するステップとを含む、請求項1に記載の発泡性接着剤組成物を発泡させる方法。

【請求項9】

(a) 前記ホットメルト接着剤と、前記プロックコポリマーと、発泡セル形成剤とを含む発泡性接着剤組成物を調製するステップと、

(b) 発泡性接着剤組成物をT1に加熱するステップと、

(c) 発泡性接着剤組成物をT2に加熱するステップであって、発泡セル形成剤がT1を超える温度で活性化され、これにより発泡性接着剤が発泡するステップと、

(d) 発泡した接着剤組成物を基材に塗布するステップとを含み、T2がT1よりも高く、

発泡セル形成剤が、アゾジカルボンアミド、オキシビス(ベンゼンスルホニルヒドラジド)、トルエンスルホニルヒドラジド、5-フェニルテトラゾール、炭酸水素ナトリウム、クエン酸、アクリルコポリマーおよびこれらの混合物からなる群から選択される、請求項1に記載の発泡性接着剤組成物を発泡させる方法。

【請求項10】

(a) 前記ホットメルト接着剤と、前記プロックコポリマーと、複数の膨張性ミクロス

フェアとを含む発泡性接着剤組成物を調製するステップと、

(b) 前記発泡性接着剤組成物をT2に加熱するステップであって、膨張性ミクロスフェアがT1を超える温度で活性化され、これにより発泡性接着剤が発泡するステップと、

(c) 膨張したミクロスフェアを有する前記接着剤を基材に塗布するステップとを含み、T2がT1より高く、T1において接着剤が本質的に膨張ゼロのミクロスフェアを含む、請求項1に記載の発泡性接着剤組成物を発泡させる方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

好みのポリオレフィンの例として、例えば、C₂と、C₃、C₄、C₅、C₆、C₇、C₈、C₉、C₁₀、C₁₁および/またはC₁₂を有し、190においてASTM D1238に従って測定される、約5超えから約2,500g/10分のメルトイントックスを有し、全体の結晶化度がポリマーの約10%から約25%の範囲である、エチレン-オレフィンが挙げられる。例えば、C₃と、C₂、C₄、C₅、C₆、C₇、C₈、C₉、C₁₀、C₁₁および/またはC₁₂を有し、190においてASTM D1238に従って測定される、約5超えから約2,500g/10分のメルトイントックスを有し、全体の結晶化度がポリマーの約10%から約25%の範囲であるプロピレンコポリマーは、もう1つの好みのオレフィンである。